

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

Mozart Requiem K.626



平成26年度 あつぎ市民芸術文化祭「市民芸術祭」
12月14日（日）14時00分 開演 厚木市文化会館 大ホール

- 街路を美しく彩っていた樹々の葉もいつの間にかすっかり落ちて、冬の気配が感じられる頃となりました。友の会会員のみなさまには、お変わりなくお元気で過ごしてはいかがでしょうか？
- 厚木市主催による年末恒例の「市民芸術祭」で、ここ数回はずっと市民合唱団のみなさまとベートーヴェンの「第九」をお届けしてまいりましたが、今回は厚木市制60周年カウントダウン事業としての記念演奏会でもあり、新たにモーツァルトの「レクイエム」に挑戦することとなりました。1994年に厚木合唱連盟創立15周年記念の演奏会で共演させていただいて以来、当団では20年振りの「レクイエム」となります。
※今回大浦先生のご希望により、「レクイエム」ではなく「レクイエム」という表記の仕方をしています。
- もう30年も前の映画になりますが、ミロス・フォアマン監督「アマデウス」（1984年のアカデミー賞8部門で受賞）で、エンディングに向かって象徴的に使われていた曲がこの「レクイエム」です。衝撃的なモーツァルトの埋葬シーンと共に思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか？
- 指揮をしていただくのは、市民芸術祭には3回連続の登場となります大浦智弘先生です。大浦先生とは2007年に「第57回定期演奏会・イタリアオペラへの招待」を振っていただいていたご縁で、定期演奏会やオペラ公演、第九公演など2012年までの6年間、毎年指揮をお願いして来ました。いつも先生からは、音楽に対する謙虚で真摯な姿勢と共に、一つ一つの曲にかける熱い想いが静かに伝わってくるように感じられます。

今度は 大浦先生が、「レクイエム」についての「たいへん素朴な疑問」に答えて下さいました。

大浦先生にインタビュー！！

モーツァルトは皆様もご存じのように、この曲を完成させることなくあの世に旅立ってしまいます。では、続きはいったい誰が…？そのあたりからお話を伺ってみました。



—今回、先生はバイヤー版の楽譜を指定されましたが、その理由を教えてくださいませんか？

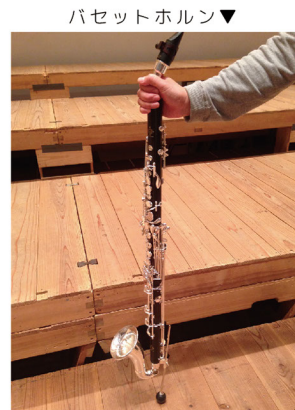
実は、モーツァルトのレクイエムには複数の版がありまして、これまでで一番演奏されてきたのは弟子ジュスマイヤーの補筆による完成版なのですが、それを尊重しながらよりモーツァルトのスタイルに近い形を研究したのがバイヤー版なのです。現在僕は、横浜シティオペラというところでモーツァルトの晩年のオペラ「魔笛」に取り組んでいますが、そこにみられるスタイルからも、当時のモーツァルトがもし完成させていたらこういう曲になったのではないかとオーケストラのパートをこのように書いたのではないかと…。今回、オーケストラも合唱団にも新鮮な形で取り組んでほしいと思って、この版を選びました。

—どこまでが、本人が確実に書いたと言われるのでしょうか？

Lacrimosa「涙の日」の第8小節までだと言われるのですが、そこまで全て彼が完成したわけではなく、断片的にスケッチが残されていたり、一部のパートや和音を示す数字がメモされているにとどまる部分もありました。ただ、ジュスマイヤーは彼から曲の形をある程度指示されていたようで、最初と最後の曲が同じなのも、その指示によるものだとされています。

—今回、バセットホルンが使われますが、それは普段はクラリネットで代用されることが多いのですか？

バセットホルンはオーケストラの中では一般的ではなく、特別なときにしか使われないので、奏者の方がお持ちでないときは代用されるという可能性もあります。先ほどの「魔笛」でも使われていますし、クラリネット奏者が演奏する楽器なのですが、出てくる音色が全く違うものになっています。



バセットホルン▼

—クラリネットの「前身」というわけではない、全く別の楽器？

そうです。親戚、または兄弟と思っていただいたらわかりやすいと思います。通常のクラリネットは、楽譜の「ド」を吹くと「シ♭」の音が出るB♭管、「ラ」の音が出るA管が主ですが、バセットホルンはF管ですから「ファ」の音が出て来ます。奏者の方も初めはとまどいがあったのではないのでしょうか？

「大きな音を出すのが大変なんです〜」
(奏者H氏談)

—合唱団について伺いますが、かなり多くの方が参加されるようですね。はじめての方もいらっしゃるようですが？

多くの方が参加してくださっているという事で関心の高さがうかがえますね。素晴らしい音楽作品により多くの方が触れていただける機会になりますので、音楽家としては「種まき」のような活動だと思っています。このような機会を大切にしたいですね。実際、練習ではまだ歌い込みが必要なところはたくさんありますが、回数を重ねていくうちに、そうした作品の素晴らしい部分をくみ取っていただいたら、それを表現したい、もっとこう歌いたいという思いがたかまってくるでしょうし、これから本番までの数週間で、合唱指揮の福島先生の情熱的なご指導のもと毎回伸びていくのが楽しみです。

—歌詞はラテン語でしたか？

そうです。ラテン語も同じ綴りでもいろんな発音の仕方があって、ドイツ語式、イタリア語式、場合によってはフランス語式の発音もあるのですが、今回、より一般の方が歌いやすいようにイタリア語式の発音でやっています。いわゆるローマ字読みプラスαですね。それは実は声楽的にも歌いやすいのです。モーツァルトのレクイエムはドイツ語かイタリア語で歌われることが多いです。

—「レクイエム」は作曲家は違っても、使われる歌詞は同じなのですか？

はい。ただ、作曲家のセンスで組み合わせが変わるという事はあります。たとえばヴェルディのレクイエムでは、モーツァルトが作曲しなかったテキストの部分もあります。「レクイエム」は「死者のためのミサ曲」と日本では訳しますが、出だしのテキスト「Requiem aeternam, dona eis, Domine.」（レクイエム エテルナム ドナ エイス ドミネ 彼らに永遠の安息を与えたまえ、主よ）という歌詞の頭の部分を取って「レクイエム」というわけです。本来は葬送のミサのための音楽が、モーツァルト以降の作曲家は、純粋に芸術的に音楽作品として彼らの感情を持って作曲するということが増えてきたようです。モーツァルトは自身のレクイエムを書くよう、神様から導かれていると感じたこともあるようですが、フォーレやヴェルディの場合は身近な人の死が作曲の契機になっています。



「モーツァルトの臨終 ジュスマイヤーと戸口に不思議な使者」
(出典：音楽之友社『音楽史大図鑑』)

—モーツァルトは、さる人からその作曲を依頼されたという話がありますが？

自分が作曲したかのように演奏してお披露目するのを趣味としていた貴族が、匿名で依頼に来たという…

自分の私的集まりで、自分が作曲した曲ですと披露したかったといういきさつがあるようです。

—先生、どうもありがとうございました。



第71回定期演奏会に御来場 ありがとうございました！



Photo：大庭弘幸氏（森の里）

去る10月5日、厚木市文化会館大ホールにて第71回定期演奏会が開催されました。一日中雨が降り続くあいにくの天候にもかかわらず、友の会会員の皆様をはじめとする566名の熱心なおお客様のご来場をいただき、無事終了することが出来ました。心より御礼申し上げます。表現力豊かな柴田真郁先生の指揮に引き込まれるようにして、ステージ上の団員ひとりひとりがメンデルスゾーンとブラームスの響きに包まれて、楽しく充実した時間を過ごすことができました。お客様にもその想いが少しでも伝わっていたら、幸いです。

《61名のお客様より回答をいただきましたアンケートの結果から、その一部を掲載させていただきます。》

◆今日の演奏会についての感想をお聞かせ下さい

- ・感動しました。ぜひまた！
- ・皆素晴らしく堂々と一流の外国の曲が聞けて大変良かった事と、これからの活力につながりました。
- ・指揮者の解釈、特にブラ2の2楽章のテンポ、音楽性が素晴らしかった。オケも一生懸命。音にしようとする感じが良かった。4楽章の独創性も良かったが、オケが付いていけなかったかな。
- ・初めてでしたが、聴きやすかったです
- ・ブラームスの交響曲第2番二長調 Op73 の大曲がとてもきれいな曲でした。(とくにフルートの音がきれいだった)
- ・ホルンが良かったです。チェロやコントラバスの音量もあって良かったです。
- ・「スコットランド」若い頃を思い出しながら なつかしさ覚え鑑賞しました。
- ・この様な場が初めてで、とても素晴らしかったです。

◆会場や鑑賞する環境はいかがでしたか？

- ・空調も良く、お客様も子供さん連れもマナー良くて好感がもてました。
- ・シャッター音が聞こえた。多目的鑑賞室で撮ってほしい。
- ・やっぱり自由席でどこでもすわれるのが良い
- ・残念ながら、小さなお子さんの物音がしてしまっ(2F席)(物を落とすなど)
- ・ヨチヨチ、ハイハイする子供が開演スタート後、10分程 声をあげていました。退席しましたが、クラシック音楽を楽しんでもらいたかったら、屋外の会場(公園など)で行ったらどうでしょうか？客席の音など響かないと思います。
- ・会場も素晴らしいですが、音の世界に感激しました。有り難うございました。

◆その他、お気付きの点や、ご感想をお知らせ下さい

- ・麻布PTAコーラスの者です。前回のヴェルディのレクイエムでは大変お世話になりました。オケだけでもダイナミックでステキでした。
- ・天候が悪くて残念だった。
- ・未就学児の入場OKというのは賛成だが、エリアを指定してもらえると良い。あまりにもうるさいので周囲の人がにらみつけ、親子も恐縮して途中で帰ってしまった。
- ・アンコール無しは残念！
- ・地元厚木市にこのような立派な交響楽団が存在するとは嬉しくも誇りです。永遠の継続を!!ブラボー!!
- ・南毛利公民館での事前の勉強会のおかげで理解が深まりました。
- ・演奏会に来たのは初めてでしたが、非常に楽しめました
- ・コンダクターの柴田さん、素晴らしい。感動しました。
- ・約10年ぶりに聞きましたが、お客様も少なくなりましたね。何かあったんでしょうか？
- ・中低弦が充実した響きだったのに比べ、ヴァイオリンが音量も少なく、実力が見劣りした。1st VIはコンミスさんが孤軍奮闘という感じ、2ndは全く存在感がなく、ブラームスの音作りが台無しだった。
- ・地域社会の公器として、多いに貢献して下さい
- ・弦の力強さと流れるような美しさがとても素敵でした
- ・台風の中、演奏ありがとうございました
- ・指揮者の方の情熱が伝わってきました。

毎回、小さいお子様についてのご意見をいただきますが、それについては演奏会後の役員会でも話題になります。残念ながらまだこれといって有効な解決策は見出せませんが、今まではプログラムに載せるにとどめていた「お願い」を、開演直前にあらためて場内アナウンスすることから、まずは始めてみることにしました。

ホール内にお子様連れの方専用エリアを設定することについては、賛否両論あり、引き続き検討しなければなりません。会員のみなさまはどのように思われますか？

幼いお子様にも生のオーケストラの音を聴かせたいと希望される親御さんの思いを私たちはしっかり受け止めたいと思いますし、不安を抱きつつもご来場下さる親御さんはきっと、十分マナーもわかまえていらっしゃると思います。私たちは期待しています。どうか、周りの皆様も温かい心で見守ってくださるよう、お願いいたします。



第71回定期演奏会に先立って、9月21日(日)の午後南毛利公民館において「学級講座・生演奏を聴いてみよう」が開催されました。10月に演奏会がある年には、もう恒例となっているこの講座ですが、おかげさまで今回も定員を上回る方々からご応募をいただきました。合宿会場の御殿場から直航の柴田先生による曲目解説や当楽団有志数名によるワンポイント実演!もあり、楽しくなごやかな時間となりました。



事務局より

- 第71回定期演奏会にご来場のお客様から、新しく2名の方が「友の会」にご加入下さいました。本当にありがとうございました。会員の皆様の温かいご支援にお応えできますよう、これからも演奏はもちろんのこと、事務局の活動にも一層力を入れてゆきたいと存じます。
- 厚木市民芸術祭「レクイエム」公演の入場券は、すでにお手元にお送りいたしておりますが、追加をご希望の方は、文化会館チケット予約センターにてお求めください。A席(800円)ならまだ余裕があるとのことでした。
- 2014年度の厚木交響楽団の活動はこの「市民芸術祭」をもって終了いたしますが、友の会の本年度会員期間は来年3月までとなっています。年が明けましたら、また継続のご案内等お送りさせていただきますので、引き続き「厚木交響楽団友の会」をよろしく願いいたします。

これからの 演奏会予定

● 第72回定期演奏会

2015年4月19日(日) 14:00 開演 厚木市文化会館大ホール
バーンスタイン：キャンディード序曲
コープランド：バレエ組曲「ロデオ」
ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」
指揮／松村秀明

団員からの希望も多かった「アメリカもの」とベートーヴェンの「田園」という異色の組み合わせです。会員の皆様には、次号「友の会通信」と一緒に入場招待券をお送りいたします。

◎厚木交響楽団友の会では、会員を随時大募集しています。お知り合いやご友人で入会希望の方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。